

「かんきょう」パンフレット

第82号 (社内環境情報紙)

2013年1月16日

青柳工業株式会社 環境会議 事務局

2013年の新春を迎えて 大曾根哲哉

穏やかな新春を迎え、心からお慶び申し上げます。

環境活動は、4月切り替えのため、これからが仕上げの段階となります。2012年度の目標も、社員の協力により、キャップ回収を始め、順調に達成値を積み上げていますが、最大の難関は電気使用量の低減です。現在、達成率で99%と目標達成には、微妙な状況です。日々節電に気配りいただいておりますが、もう一度、自分の回りを見直し、惰性で暖房を使い続けていないか、無駄な照明は点けていないか確認をお願いします。環境活動では、様々なことが言いつくされ、活動の決め手となるようなものはなくなって来ていますが、これからも地道な努力をお願いします。

エコプロダクツ2012を見学しました

東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2012」を見学して来ました。今回も会場の中は、熱気にあふれていました。日立製作所のブースでは、小型風力発電機などが展示され、新エネルギー技術を前面に押し出して展示していました。昨年から当社でも取組を始めた、エコキャップ推進協会も大きなブースを出して、回収活動を宣伝していました。担当者に当社もキャップ回収活動を実施していると告げると、今年の回収状況、金属分別に対する協力要請などがありました。私からは、同材質のペットボトル以外のキャップを混ぜてはいけないかと質問してみました。担当者から、分別を目的とした活動であるため、他のキャップは遠慮したいといった回答でした。また、会場内では、たくさんの大学や高校、小学校の生徒達が独自に調査した環境問題を発表、展示していましたが、質問すると一生懸命説明してくれました。自分達が調べたこと、活動したことを精一杯人に話すことは、それだけで充分、教育なると思うと同時に、次代を担う人がこのような催しの中から生まれて来ると思いました。



日立製作所のブース



エコキャップ推進協会のブース



キャップ粉砕機で実演

環境影響評価を実施しました

環境影響評価を昨年12月に実施し、1月の会議で著しい環境影響項目や重点環境活動項目などを特定することになりました。今回の評価で特徴的だったことは、重要な活動として、防災対策をあげる意見が多く、訓練などを含む様々な活動が、今後、必要不可欠になると考えているようです。早いもので、東日本大震災から2年が過ぎようとしています。福島原発処理に対する対応など今でも震災対策は、おもうように進んでいないようです。また、新たな地震発生も取りざたされたいです。震災に対する備えは、これからも続けて行くべきと考えます。

環境コラム

「形を変えつつある環境活動」

～エコプロダクツ2012を見学して～

エコプロダクツの環境展示会を見学しましたが、私自身、6～7年連続で見に行っているせいでしょうか、徐々に出展内容が変化しているように思えます。当初は、中小メーカーも巻き込んで、製品の安全性や、環境適用などを訴える展示が多く、見ていて勉強になる事がたくさんありました。最近、大企業のブースでは、製品の宣伝が主で、製品イメージをアップさせるための展示やアンケート調査が目立つようになってきました。その一方で、学校の参加が増え、環境の研究や休耕田を活用して、新たな製品づくりを目指したり、地域が連帯して、川の流域にある、小学校、中学校の生徒達が水質などの定点観測をして、その結果を踏まえ、高校生や大学生が、それらのデータをもとに、提言をまとめるといったことを行っているようです。従来からの考えにとらわれず、新しい感覚で活動を展開することがせまられているようです。